



注目ポイント

- ✓先週、日米中銀ウィークを控えた市場は、週央まで動意の乏しい展開だったが、週後半は中東問題(イスラエルによるイラン攻撃)を機に全体的にリスク回避ムードが強まった。ドル円は、一時1ドル=142円台後半まで下落し、国内金利は、10年国債利回りが一時1.385%まで低下。また、週央まで3万8千円台に乗せていた日経平均も、反落して終了。
- ✓急激に高まった地政学リスクに加え、今週は日米中銀の会合、日米通商協議等イベントが目白押しということもあり、市場は不安定な展開が予想される。ドル円は日米中銀会合後の両トップの会見に注目。特にパウエルFRB議長が早期利下げを示唆すれば波乱要因に。国内金利は、国債買い入れ減額幅の縮小観測等が金利低下圧力となる一方、原油高によるインフレ懸念が上昇要因となる可能性も。日経平均は、地政学リスクや米関税政策の不透明感が足枷となろう。(門倉英司)

2025年6月9日 ~ 2025年6月13日

市場・指標			6月9日 ~ 6月13日		6月13日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	 日本	日経平均 (円)	38,530	37,540	37,834	+93	+0.2%	
	 米国	NYダウ (ドル)	43,116	42,081	42,198	-565	-1.3%	
	 ドイツ	DAX (ポイント)	24,290	23,360	23,516	-788	-3.2%	

市場・指標			6月9日 ~ 6月13日		6月13日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	 日本	10年 (%)	1.480	1.385	1.410	-0.040	
	 米国	10年 (%)	4.52	4.31	4.40	-0.11	
	 ドイツ	10年 (%)	2.59	2.42	2.54	-0.04	

市場・指標			6月9日 ~ 6月13日		6月13日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	 米ドル (円)		145.46	142.80	144.07	-0.78	
	 ユーロ (円)		166.74	164.55	166.37	+1.31	
	 豪ドル (円)		94.75	92.32	93.50	-0.55	

市場・指標			6月9日 ~ 6月13日		6月13日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	 日本	東証リート (ポイント)	1,782	1,743	1,782	+28	+1.6%	
	 米国	NY原油 (ドル)	77.62	64.20	72.98	+8.4	+13.0%	
		NY金 (ドル)	3,468	3,313	3,453	+106	+3.2%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。



②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年6月16日 ~ 2025年6月20日

株式 不安定な展開か

日経平均
【予想レンジ】 37,200 円 ~ 38,300 円

- 先週の日経平均は小幅上昇。週前半は、心理的節目で利益確定売りも出やすく上値が重い中、米株高や円安を背景に堅調に推移し3万8千円台を回復した。しかし週後半は米関税問題の不透明感や円高、さらには地政学リスク(イスラエルのイラン攻撃)の高まりを受けて、リスク回避売りが優勢となり、3万7千円台に反落して取引終了。
- 今週の日経平均は、不安定な展開か。中東リスクに加え、トランプ米大統領が輸入車への更なる追加関税を示唆する等、米国の通商政策への警戒感も根強い。もっとも、トランプ関税については「TACO (Trump Always Chickens Out トランプはいつもびびってやめる)」の見方から楽観ムードが生まれる可能性も。また日米関税交渉に楽観は禁物だが、一定の合意により押し目買いの好機になる可能性も。



金利(国債) もみ合いか

10年国債利回り
【予想レンジ】 1.370 % ~ 1.450 %

- 先週の国内金利は方向感を探る展開から、週末にかけて低下基調に。週前半は、米金利上昇や流動性供給入札の弱さから10年国債利回りは1.48%まで上昇。一方、週央からは超長期国債の発行減額観測等が相場を支え、米物価関連指標の下振れや中東地政学リスクも影響し、週末には10年債利回りが、一時1.385%に低下する場面も。
- 今週の国内金利は、もみ合いか。金融政策決定会合(16~17日)では、政策金利の据え置きが見込まれるが、国債買入れ減額計画の中間評価で、来年4月以降の減額幅を縮小するとの見方がある。中東問題に加え、減額ペースの鈍化は金利低下材料となるが、今月に入り約0.1%も低下していることもあり、余地は限られよう。一方で急激な原油高を背景としたインフレ懸念が金利上昇圧力となる可能性も。



為替(米ドル) 居所を探る展開か

米ドル/円
【予想レンジ】 142.00 円 ~ 146.00 円

- 先週のドル円は、円高ドル安が進展。週央までは、小幅なレンジでもみ合いの展開となった。しかし、週後半には米物価関連指標の下振れを受けてFRBの利下げ観測が強まったことや、中東の地政学リスクの高まりから、一時1ドル=142円80銭(13日東京時間)まで円高ドル安が進展。その後海外市場では、流動性の高いドルを買う動きや、ドルの売り持ち高調整で、144円台までドルが買い戻されている。
- 今週のドル円は、居所を探る展開か。日米中銀の決定会合は、ともに政策金利の据え置きが見込まれるが、会合後の両トップの会見に注目。特に、米国では5月の物価関連指標が予想を下回った中で、パウエル議長が早期利下げを示唆するようならば、サプライズに。もっとも日米通商交渉次第で、大きく変動する可能性にも注意が必要。

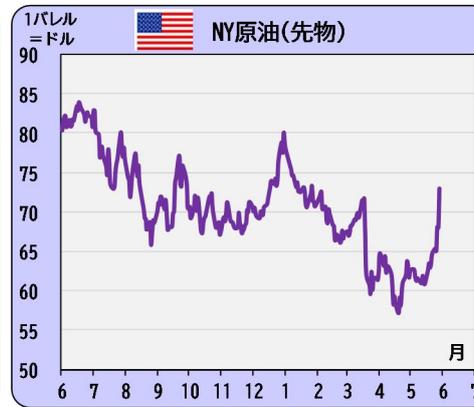
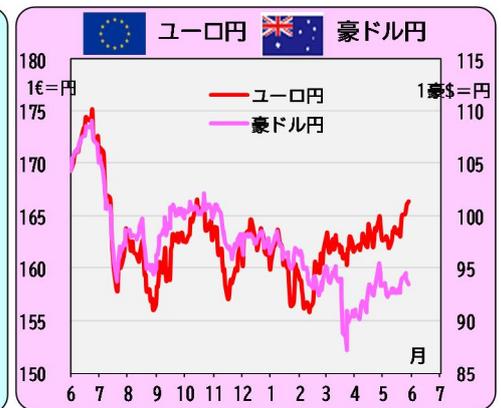
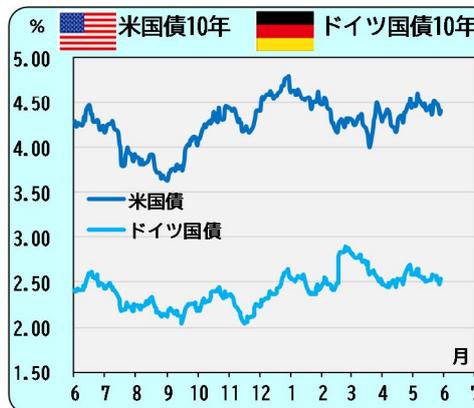


○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月日	国内	海外
6/16(月)	日銀金融政策決定会合(~17日)	米国: 国債入札(20年) ※ G7サミット(主要国首脳会議~17日)
6/17(火)	植田日銀総裁会見	米国: FOMC(~18日) 米国: 小売売上高(5月) 米国: 鉱工業生産指数・設備稼働率(5月)
6/18(水)	貿易収支(5月) 機械受注統計(4月)	米国: 住宅着工件数(5月)
6/19(木)	国債入札(5年)	米国: 祝日(奴隷解放記念日)
6/20(金)	日銀金融政策決定会合議事要旨(4/30-5/1開催分) 全国消費者物価指数(5月)	米国: フィラデルフィア連銀景気指数(6月) 米国: 景気先行指標総合指数(5月)

③その他チャート集

直近1年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)

●ご留意事項

- 本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客さまご自身でなさるようお願いいたします。
- 本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。